

10年

平和祈念像が建設され、長崎は平和都市として歩み始める。一方で、被爆者の福田須磨子さんは「ひとりごと」という詩で、被爆者に対する補償が不十分ななかで多額の寄付金を使い建設された像に対する複雑な感情を表現した。

